

学習成果を活用して地域活動に参画する
人材を育成する学習プログラムの開発に
関する調査研究

調査研究報告書 第35号

北海道立生涯学習推進センター

平成26年3月

はじめに

現在、我が国は、少子化・高齢化による社会活力の低下や都市化・過疎化の進行等による社会のつながりの希薄化などに加え、環境問題やエネルギー問題など様々な問題に直面しており、かつてのような物質的な豊かさのみの追求から脱却し、持続可能な社会の構築に取り組んでいくことが求められています。

こうした中、平成25年6月には第2期教育振興基本計画が閣議決定され、「社会が人を育み、人が社会をつくる好循環」をつくるためには、自立したコミュニティによって地域の課題を解決する必要がある、人々が「その経験や知識・技能を、コミュニティへの積極的な参画により、次世代育成支援や地域課題の解決等の社会貢献に生かしていくことが重要である」としています。

これは、一人一人が生涯学習で学んだ成果を活用して、地域活動等に参画していくことに他ならず、その意義については、国や道の各種審議会等において、これまでも幾度となく議論されてきたところであります。

しかしながら、道教委が実施している「生涯学習に関する住民の意識調査」によると、「学習成果をまちづくりやボランティア活動などに生かしている地域住民の割合」は、平成18年度が20.3%、平成23年度が18.7%であり、学習成果の地域活動への活用が進んでいない状況が明らかとなっております。

こうしたことから、北海道立生涯学習推進センターでは、住民が生涯学習で学んだ成果を地域活動に生かすための学習プログラムを市町村等に提示していくことが必要であると考え、本調査研究に取り組むことといたしました。

この調査研究報告書が、地域活動に参画する人材を育成するための具体的な事業の企画立案の参考となり、道内市町村の生涯学習・社会教育の担当者の熱意と創意工夫にあふれる実践の一助となれば幸いに存じます。

終わりに、本調査研究の実施にあたり調査に御協力をいただきました沼田町教育委員会、上士幌町教育委員会、鹿追町教育委員会、新得町教育委員会の皆様に心から厚く御礼申し上げます。

平成26年3月

北海道立生涯学習推進センター所長

村 田 智 己

目 次

第1章 調査研究の概要

1 調査研究の目的	1
2 調査研究事項	1
3 調査研究の方法	1

第2章 理論編

1 学習成果の活用が求められる背景とその意義	2
2 学習と学習成果の活用の関係	3
3 学習者の行動を促す学習方法	3

第3章 実践編

1 実践編の概要	5
(1) 実践編の目的	5
(2) 研究の方法	5
(3) 協力市町村	5
2 具体的な事業内容	6
(1) 町の事業を企画・立案するプロセスを通してスキルアップを図る「実践ベ ース型人材育成事業」(沼田町)	6
① 事業の概要	6
② 学習プログラム	7
③ 学習プログラムにおける主な活動の内容と学習の手法	7
④ 学習プログラム立案の留意点	8
⑤ アンケートの結果	9

(2) 他町の取組から刺激を受けて互いに切磋琢磨する「連携・交流型人材育成事業」(十勝3町)	11
① 事業の概要	11
② 学習プログラム	12
③ 学習プログラムにおける主な活動の内容と学習の手法	13
④ 学習プログラム立案の留意点	13
⑤ アンケートの結果	14

第4章 考察

1 アンケート結果から読み取れること	16
2 成果と課題	17
(1) 学習プログラムについて	17
(2) 学習成果の活用について	17
(3) 人材育成における連続講座の意義について	17
3 今後の取組	18

【参 考 資 料】

○ほっかいどう学地域活動推進講座実施要領	19
○「沼田町の将来を担う町づくりリーダー養成塾」開催要項	21
○「上士幌町、新得町、鹿追町3町連携事業」開催要項	25
○事後アンケート	30

第1章 調査研究の概要

1 調査研究の目的

市町村（広域を含む）やNPO・民間団体等との連携・ネットワークを構築しながら、学習成果を活用して地域活動やまちづくりに貢献する人材を育成する学習プログラムを開発し、市町村等に普及することにより、地域の学習活動の活性化を図る。

2 調査研究事項

学習成果を活用して地域活動に参画する人材を育成する学習プログラムの開発

3 調査研究の方法

（1）理論編

文献、資料、先行研究等にもとづき、学習成果を活用して地域活動に参画する人材を育成するための学習プログラムの開発が求められる背景等を整理する。

（2）実践編

地域活動に参画する人材の育成に取り組む以下の2つの実践を研究対象として、学習プログラムの企画立案の視点等を整理する。

①沼田町

事業名「沼田町の将来を担う町づくりリーダー養成塾」

②十勝3町合同（上士幌町、新得町、鹿追町）

事業名「上士幌町、新得町、鹿追町3町連携事業」

（3）理論編・実践編を踏まえた考察

第2章 理論編

1 学習成果の活用が求められる背景とその意義

平成18年に改正された教育基本法では、第3条で「生涯学習の理念」が規定されており、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と、学習成果の活用に関及している。社会教育法、図書館法、博物館法においても同様の記述が見られる。

社会教育法

(市町村の教育委員会の事務)

第5条 市（特別区を含む。以下同じ）町村の教育委員会は、社会教育に関し、当該地方の必要に応じ、予算の範囲内において、次の事務を行う。

十五 社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して学校、社会教育施設その他地域において行う教育活動その他の活動の機会を提供する事業の実施及びその奨励に関すること

学習成果の活用については、教育基本法の改正以前から、中央教育審議会や生涯学習審議会において、その意義が指摘されていたが、平成11年6月に、生涯学習審議会から「学習の成果を幅広く生かす」が答申されている。

本答申では、生涯学習による生きがい追求が創造性豊かな社会の実現に結びつくようにするためには、生涯学習の成果の活用促進に力を入れる必要があるとし、そのための社会的な仕組みの構築等を課題として挙げるほか、学習機会の提供にあたっては学習者の活動のために必要な力を養う学習へと重点を移行させるべきとの考えを示している。

特に、学習成果の活用の仕組みづくりにおいては、第3の課題として「地域社会の発展に生かす」ことの重要性について提言している。

地域には様々な課題が存在するため、行政の対応だけでは限界があり、住民自らが学習して課題に対する理解を深め、その課題の解決に主体的に参加しようとするときに初めて効果的な対処が可能となることから、答申では、「住民の力によって地域社会の課題を解決し、地域を再生させる上でも、住民の学習や、学習した成果を生かした地域活動への参加が欠かせない」と、学習成果を地域社会の発展のために活用することの意義を述べている。

また、北海道においては、平成21年の北海道生涯学習審議会が、その答申「地域の教育力の向上を目指した本道における生涯学習の在り方～効果的な学習成果の活用方策の視点から～」の中で、「地域の教育力を向上させていくためには、自らの知識・技術・経験や学習した成果を地域の中で十分に生かすことができる環境づくりをすすめていかなければならない。学習の成果を生かす場が多くあれば、住民同士の交流の機会が増え、地域における住民の連帯感や自治活動の促進を図ることができる」として、学習成果を活用することの意義について述べている。

2 学習と学習成果の活用の関係

「学習」と「学習成果の活用」の関係については、浅井経子氏の論文「学習成果の活用とその支援」における「学習との関係から見た学習成果の活用の類型」(図1)が参考になる。

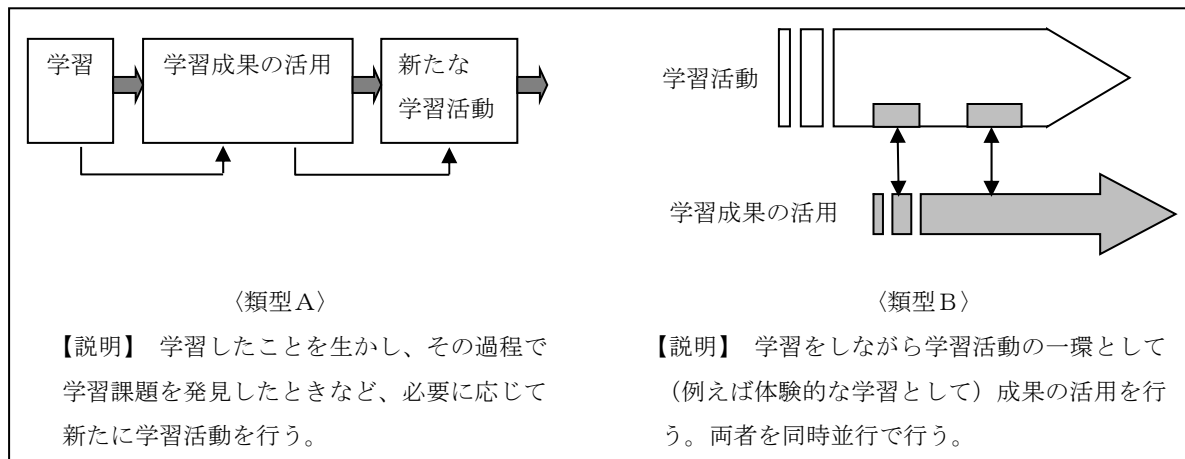


図1 学習との関係から見た学習成果の活用の類型

(浅井経子「学習成果の活用とその支援」『八州学園大学紀要』第5号(平成21年)29ページ)

浅井氏は、「学習」と「学習成果の活用」の関係を図1のように2つの類型に大別して示している。浅井氏によると、類型Aは、何らかの学習をしたあと、その成果を生かして活動し、その中で新たな学習課題を発見すれば、新たな学習活動が始まる様子を示している。学習活動と学習成果の活用が繰り返されて、学習活動がらせん状にレベルアップしていく考え方である。

一方、類型Bは、体験学習やインターンシップなどのように、学習成果を活用して活動すること自体が学ぶ機会になっており、学習成果の活用と学習活動が一体化している様子を示している。事業を企画する側としては、学習成果の活用の場面をどのように設定していくかを考える上でたいへん参考になるものとする。

3 学習者の行動を促す学習方法

学習者の学習成果を生かした行動を促すためには、学習プログラムの中に体験学習を効果的に取り入れていくことが有効と考える。平成21年に国立教育政策研究所社会教育実践研究センターが発行した「参加体験型学習ハンドブック」では、「一般に、学習指導を展開する上で重要な原理として第一に挙げられるのが『自己活動の原理』俗に言う『やる気を起こさせる』ことである。自己活動とは「外部から強制されるのではなく、みずから興味や必要を覚え、目標を立て、自力で考え行う身体的・精神的活動」(やる気)のことである。」としている。

同ハンドブックにおいて、参加体験型学習は「主体的に社会の形成に参画して、その発展に積極的に寄与する態度を養うことが教育の重要な目標であることからすれば、学習者が受身的に学習するのではなく、学習者間で相互に教えあい、討議しあい、共に調査を行うなど新しい知識の創出や問題解決、共感的理解を図ろうとするアプローチとさ

れる参加体験型学習は、今日の社会において重要な意味をもつ学習形態であるといえる。」と、その意義を述べており、その手法については、「聞く」「話す」「見る」「実践する」の4つに区分して以下の表のように整理しているので、学習プログラムを考える際の参考にしたい。

表1 参加体験型学習の手法

方法の区分	方法	手法の名称
a) 聞くことを 主とする方法	講義	講話・講義（レクチャー）、説明 知識を得たり問題に対する理解を深めるための方法
	問答法	パネルディスカッション、シンポジウム、ディベート、レクチャーフォーラム、インタビューフォーラム 問題や学習課題に対しての意見、体験談を聞くとともに意見を交流する方法
b) 話すことを 主とする方法	発表法	発表・報告 事例への理解を深めたり、話し合いを深める手がかりとする方法
	討議法	バズセッション、ブレインストーミング、ラウンドテーブル、ディスカッション、フォーラム、各種討議法 テーマに関する情報交換や問題解決の検討を参加者同士の話し合いによって進める方法
c) 見ることを 主とする方法	観察法	観察、調査、フィールドワーク、見学 学習した内容を実地に適用して理論や仮説を明らかにする方法
d) 実践することを 主とする方法	劇化法	ロールプレイ、アサーティブトレーニング、シミュレーション 学習内容に応じた場面を設定し、参加者が役割演技をしたり、コミュニケーション力を高めるトレーニングを行う方法
	実習法	実技、実習、実験、飼育、栽培、レクリエーション、ゲーム 実技や実習を体験することによって理解を深める方法

(国立教育政策研究所社会教育実践研究センター「参加体験型学習ハンドブック」(平成21年)23ページ)

また、参加体験型学習ハンドブックでは、「a) 聞くことを主とする方法」のうち「講義」について、「学習者からの自己表現の機会が極めて少ない形態であり、参加体験型学習と全く別物として扱われがちだが、学習者の態度や講師の努力などにより、学習者が参加・参画しているという意識を持つことはよく見受けられる。」としている。事前アンケートの実施や対話形式などの工夫により、参加体験型の講義をつくることは十分に可能である。

第3章 実践編

1 実践編の概要

(1) 実践編の目的

学習成果を活用して地域活動に参画する人材を育成する事例を研究し、その学習プログラムや企画立案の視点等を整理する。

(2) 研究の方法

地域活動やまちづくりに貢献する人材の育成を目的とした道民カレッジ主催事業「ほっかいどう学地域活動推進講座」の学習プログラムについて、担当者への聞き取りや参加者へのアンケートを実施する。

(3) 協力市町村

①沼田町

事業名「沼田町の将来を担う町づくりリーダー養成塾」

②十勝3町合同（上士幌町、新得町、鹿追町）

事業名「上士幌町、新得町、鹿追町3町連携事業」

2 具体的な事業内容

(1) 町の事業を企画・立案するプロセスを通してスキルアップを図る「実践ベース型人材育成事業」(沼田町)

① 事業の概要

ア 事業名

「沼田町の将来を担う町づくりリーダー養成塾」

イ 事業の目的

町の事業企画の過程をとおして、地域発信に関する知識・技術の習得や参加者（町内の青年組織）のネットワーク化を図り、将来の沼田町の活性化を担う青年層を育成する。

ウ 実施日

第1回 平成25年10月15日

第2回 平成25年11月14日

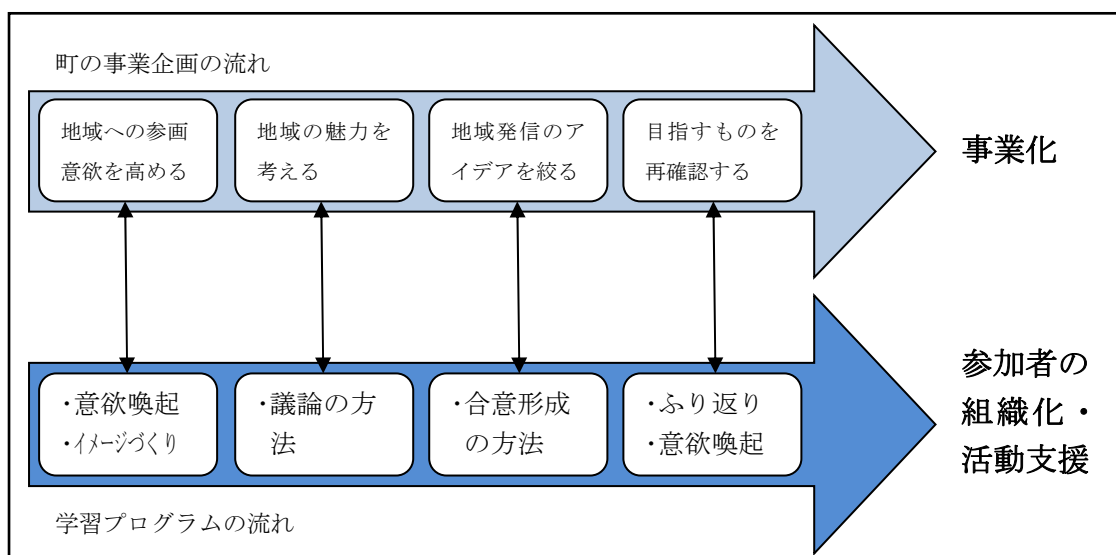
第3回 平成26年1月24日

第4回 平成26年2月21日

エ 対象

沼田町に在住の青年

オ 講座イメージ



② 学習プログラム

回・項目		学習内容・方法			
1	ねらい	①講座の目的を確認し、意欲を高める。 ②具体的な地域活動をイメージする。			
	回目	19:00	19:15	20:40	21:00
2	ねらい	①発信したい地域の魅力に目を向ける。 ②効率的・効果的な議論の方法を学ぶ。			
	展開	講座の趣旨説明		実践発表～感想・意見交流 「『ゆきものがかり』の取組について」	全体交流
3	ねらい	①町活性化のために何ができるかを考える。 ②合意形成の方法を学ぶ。			
	展開	グループワーク① 「訪問客に対して町をどのように案内するか」		全体交流	ふり返り
4	ねらい	①青年が地域活性化の中心になることの意義を再確認する。 ②本講座の目的を再確認し、継続して活動する意欲を高める。			
	展開	講義～ディスカッション 「地域の魅力とは何か、なぜ今、地域発信か」 札幌大谷大学准教授 北郷裕美氏		全体交流	ふり返り

③ 学習プログラムにおける主な活動の内容と学習の手法

(学習の手法については理論編(5ページ)表1「参加体験型学習の手法」による)

実践発表～感想・意見交流

活動の内容：有志で地域のイベントを開催している団体に、団体設立の経緯やこれまでの取組の様子について発表してもらい、参加者との感想・意見交流を行う。

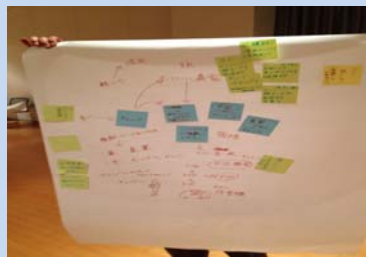
学習の手法：講義、問答法



グループワーク①

活動の内容：ラベルワークで町外に紹介したい地域の特色を挙げ、それらひとつひとつにどんな良さがあるのかを具体的に考え、町内観光コースとして発表する。

学習の手法：討議法、発表法



グループワーク②

活動の内容：いろいろな情報発信の方法の特徴について説明を受けた後、グループワーク①で話し合った内容について、その発信方法や対象等のアイデアを出し合い、イメージを絞る。

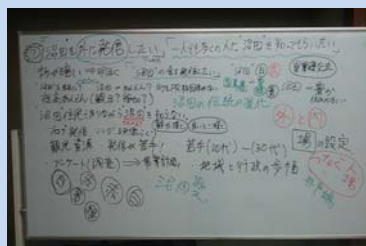
学習の手法：討議法、発表法



講義～ディスカッション

活動の内容：地域の良さを発信する目的は何なのかという根本議論に立ち返り、青年が地域の活性化に貢献することの意義を改めて考えることで、これまでの学習をふり返るとともに、今後の活動の意欲を喚起する。

学習の手法：講義、問答法、討議法、発表法

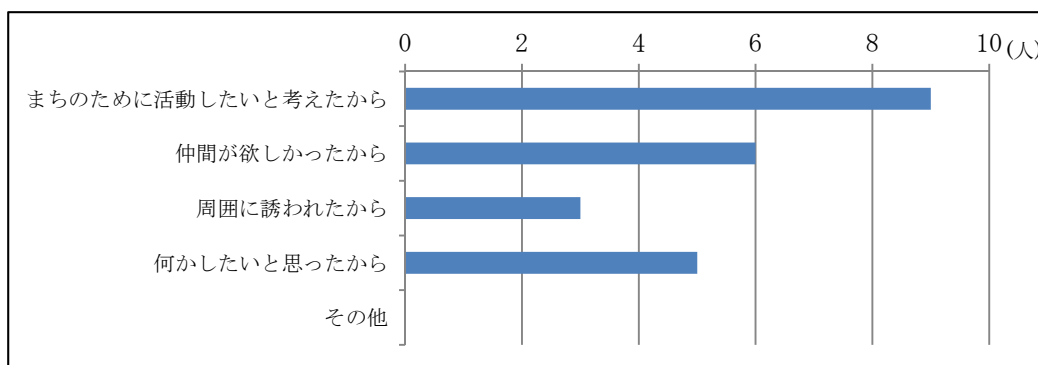


④ 学習プログラム立案の留意点

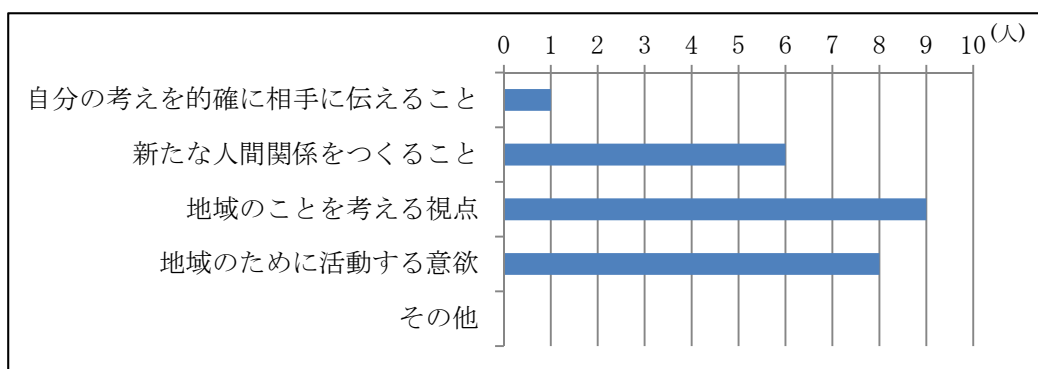
- ・実践の中で学んでいくことができるように、町の魅力を発信するための企画を検討する過程の中で、議論の仕方や合意形成の仕方を学ぶ構成とした。
- ・参加者の考えが十分に交流されるように議論の時間を確保した。
- ・時間的な制約が大きい青年が対象であるため「実施日ありき」とならないよう、また、参加者の実態にあわせるため「学習内容ありき」とならないように配慮した。

⑤ アンケートの結果 (n=9)

問1. 受講の動機はどんなことでしたか。(複数回答)



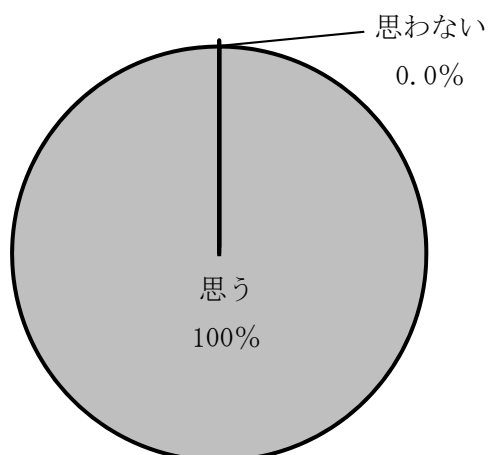
問2. 本講座で「身についた」「向上した」「新たな気づきがあった」などと考えるものは、どんなことですか。(複数回答)



問3. 講座中で最も自身のためになったと感じる活動はどんなものですか。(講義・説明等の「聞くことを主とする活動」を含む)

- ・自分の意志を持って自分の気持ちを伝えることの大切さが勉強になった。
- ・何かをするためには「ねらい」「目的」をしっかりと考えることが大切だと改めて感じた。
- ・こんなに真剣に沼田のことを考えたことはなかった。いろんな人と討論？議論？したことが新鮮だった。楽しかった。
- ・大学の先生と話して、ただ楽しいからとかおもしろそうだからとかではなくて、それも大切だが、地域が元気になることを自分ができるとしたら、すごいと思った。
- ・グループワーク。たくさん話したこと。
- ・紙に書いて順番に話したり似ている考えをまとめたりするのは、すごくためになった。勝手におしゃべりしたりするような話し合いだったので(今までは)、何かが決まっていく感じがしてちょっとワクワクしてた(ことがあった)。
- ・今回しか来てないけど、話し合いがよかった。

問4. 今後、この講座での学びを生かして地域のために活動したいと思いますか。



問5. 問4で「思う」と回答した方は、今後、どのようなことをしてみたいとお考えですか。

- ・「沼田町ってどこ？」って聞かれないように情報を発信していきたい。
- ・沼田のことだけではいけない。他の町のこと知らなければ、わからないこともあるような気がする。
- ・中心になって何かをすることはできないかもしれないけど、いろいろな人と話したり、参加したりすることを続けていきたい。
- ・札幌の団体の視察がしたい（したかった・・・）。
- ・とりあえず、夜高行灯や雪夏祭にもっと積極的に関わっていく。地域とのつながりを強めていく。
- ・自分からもっと沼田を知り、発信する側になれるようにしていきたいです。
- ・まだ「何をしたい」とは明確ではありません。今後、様々な活動を通して明確にしていきたいと思います。
- ・自分で沼田に何ができるかを考えたい。

(2) 他町の取組から刺激を受けて互いに切磋琢磨する 「連携・交流型人材育成事業」(十勝3町)

① 事業の概要

ア 事業名

「上士幌町、新得町、鹿追町3町連携青年育成事業」

イ 事業の目的

青年層の育成について同様の課題を持つ上士幌町、鹿追町、新得町の近隣3町が合同で研修を行い、互いのスキルやノウハウを学び合うことにより、地域のリーダーとしての青年層を育成する。

ウ 実施日

第1回 平成25年 7月12日

第2回 平成25年10月10日

第3回 平成25年11月15日

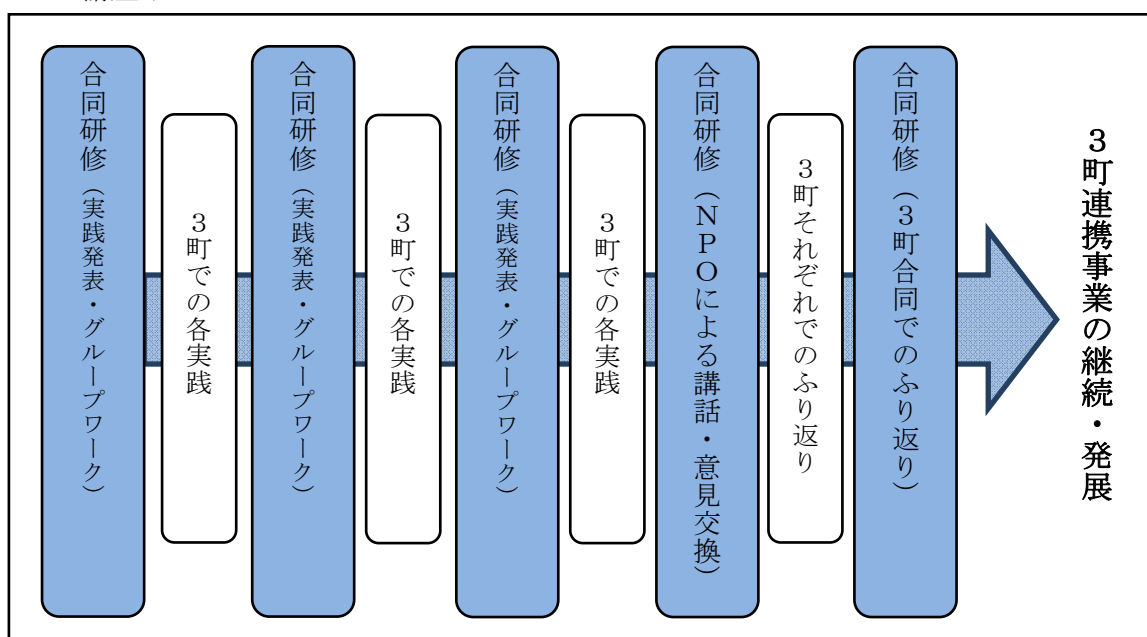
第4回 平成26年 1月31日

第5回 平成26年 2月24日

エ 対象

上士幌町、新得町、鹿追町の青年

オ 講座イメージ



② 学習プログラム

回・項目		学習内容・方法		
1 回 目	ねらい	①講座のねらいを確認し、意欲を高める ②他町の実践から自分たちの活動に生かせるポイントを探る。		
	展開	19:00 講話 「これからの青年に期待する」 鹿追町教育長	19:30 実践発表～感想・意見交流① 「鹿追町の青年団体の実践について」	20:40 21:00 全体交流
2 回 目	ねらい	①他町の実践から自分の地域に生かせるポイントを探る。 ②地域のリーダーとして活動するために必要な資質について考える。		
	展開	19:00 グループワーク① 「リーダーとして考えてほしいこと ～目的と手段～」	19:40 実践発表～感想・意見交流② 「上士幌町の青年団体の実践について」	20:40 21:00 全体交流
3 回 目	ねらい	①他町の実践から自分の地域に生かせるポイントを探る。 ②地域のリーダーとして活動するために必要な資質について考える。		
	展開	19:00 グループワーク② 「リーダーとして考えてほしいこと ～合意形成と決断～」	19:40 実践発表～感想・意見交流③ 「新得町における青年の組織化の働きか けについて」	20:40 21:00 全体交流
4 回 目	ねらい	青年による地域活動を展開するNPOの実践から、それぞれの町で抱える課題を解決する手がかりをつかむ。		
	展開	19:00 講義～ディスカッション 「NPO法人ezorockの取組について」 NPO法人ezorock代表 草野竹史氏		21:00
5 回 目	ねらい	これまでの学習をふり返るとともに、それぞれの町の今後の取組に対する考えを交流することで、さらなる地域活動への意欲を喚起する。		
	展開	19:00 講座全体の ふり返り	19:30 全体協議 「それぞれの町でのこれからの取組について」	20:40 21:00 まとめ

③ 学習プログラムにおける主な活動の内容と学習の手法

(学習の手法については理論編(5ページ)表1「参加体験型学習の手法」による)

実践発表～感想・意見交流①②③

活動の内容：3町それぞれでの青年の実践を紹介し合い、それを題材に意見交流することによって新たな気づきを得るとともに、互いの取組から刺激を受ける。

学習の手法：発表法、討議法



グループワーク①②

活動の内容：地域のリーダーとして活動するために考えてほしい点についてキーワードを示し、それについてラベルワークにより自由に考えを述べ合う。

学習の手法：討議法



講義～ディスカッション

活動の内容：札幌市で青年活動を展開するNPO法人 ezorock の実践を聞くとともに、同法人の草野代表を交えて参加者が抱える青年活動の悩みや課題について議論する。

学習の手法：講義、問答法、発表法、討議法



全体協議

活動の内容：今後それぞれのまちで実践していきたい活動について考えを交流し、互いにアドバイスし合うことにより、3町の絆を深め意欲を喚起する。

学習の手法：ディスカッション

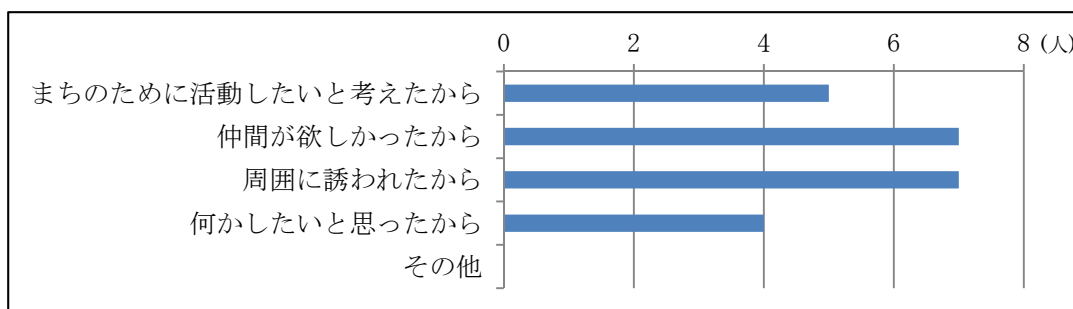


④ 学習プログラム立案の留意点

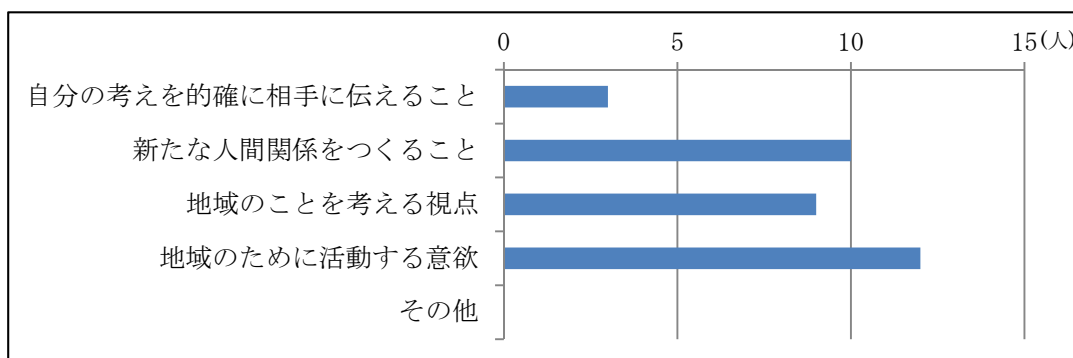
- ・ 3町連携のメリットを生かして、互いのスキルやノウハウを共有することができるように「学んで(刺激を受けて)生かす」の繰り返しの展開とした。
- ・ 人口や基幹産業が同じような町が連携した講座であり、抱えている悩みや課題なども共感できることが多いことから、互いの実情が十分に交流できるように、討議を中心的な活動とした。
- ・ それぞれの町が今後の活動についての決意を表明したり、講座をとおしてつくられた絆を再確認する場として最終回を3町全体でのふり返しとした。

⑤ アンケートの結果 (n=14)

問1. 受講の動機はどんなことでしたか。(複数回答)



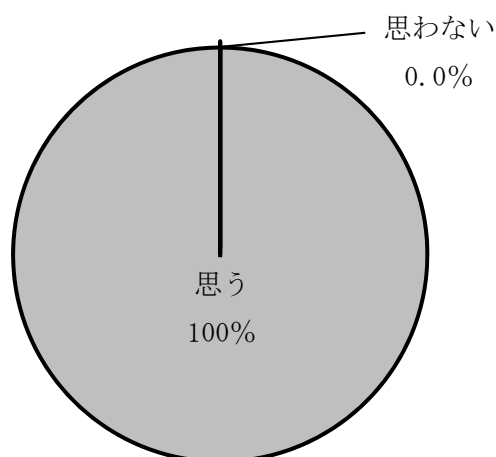
問2. 本講座で「身についた」「向上した」「新たな気づきがあった」などと考えるものは、どんなことですか。(複数回答)



問3. 講座中で最も自身のためになったと感じる活動はどんなものですか。(講義・説明等の「聞くことを主とする活動」を含む)

- ・自分が理想とする姿を常に想像しながら、事業などの活動を行うことが重要だと学んだ。目先の事業にとらわれると理想を見失い、事業や組織の継続ができなくなることを学び、これからの青年組織に生かすことができると思った。
- ・グループワークを通じて近隣の町にも積極的に活動しているところがあることを知り、刺激を受けた。自分の目的や目標、将来のことまで順序立てて考えるのは大変良い機会だった。しかし、新得はまだまだこれから。どうすれば若い人が一緒に行動できるのかなど、まず盛り上がりのきっかけ作りから。
- ・他町の若者との交流。地域のために活動する同世代との対話は非常に良い刺激となった。
- ・他町の方々がやっている活動や考えを聞いたこと。リーダーシップを考えるワーク。
- ・今はハッキリ思いつきませんが、絶対にあります。今後活動する中で気づくと思います。
- ・リーダーとしてまとめる力、目標をしっかり持つこと。
- ・みんなの意見を聞いたり話したりするのは楽しい。熱くなった。
- ・たくさん交流できたこと。他町の青年活動の話聞くことができたこと
- ・エゾロックの話はレベルが高いけど励みになる話だった。肩の力が抜ける気がした。
- ・話し合いの中で「こうしたらどう?」とか「こういう人いない?」とか意見をもらえるのがよかった。

問4. 今後、この講座での学びを生かして地域のために活動したいと思いますか。



問5. 問4で「思う」と回答した方は、今後、どのようなことをしてみたいとお考えですか。

- ・具体的には出てこないけど、楽しい&地域が元気になること。
- ・リーダーとして先頭に立ち、行動を起こすことはまだ難しいので、まずは町内会活動や既存の事業に参加し、まちづくりの当事者としての意識を高め、今後の活動への足がかりとしたい。
- ・まだまだ自分は主催側にはなれる気がしないので、いろいろなことに協力し、知識と経験が必要だと感じている。しかし、気の合う人たちで協力し、異業種交流会は継続して開きたい。
- ・青年団体の立ち上げ。既存組織にとらわれず、同じ目的や思いをもてる仲間と作り上げていくことが重要。その上で、組織を動かすキーマンとなる人材の発掘が必要。
- ・今していることに生かしていきたいと思います。
- ・やりたいと思う環境をつくってあげたい。
- ・子どものためのイベントを増やしたい。若者たちが出る（活動する・交流する）場を増やしたい。
- ・自分自身が成長することにより、周囲の方がより成長し、町に対する恩返しと、地域の子どもへ意志を伝えられる活動をしていきたいと思います。
- ・自分にプラスになること（経験、人間関係）と町にプラスになることをどちらも両立できる何かをやっていきたい。
- ・子どもたちとのふれあい。
- ・まだ漠然としていますが、地域のいろいろなところに足を運んでみたい。
- ・もっと他のまちの青年とも話したいです。
- ・できることからやってみることが大事だと思った。大きくかまえないでできることをやっていきたい。
- ・子どもたちと遊んだりするイベントから始めたい。

第4章 考察

1 アンケート結果から読み取れること

(1) 講座の受講動機を聞いたところ、沼田町では「地域活動に興味がある青年」を募集対象としたため、「まちのために活動したいと考えたから」が最も多い結果となっている。その他にも「仲間がほしかったから」「何かしたいと思ったから」などが動機の参加者がおり、いろいろな期待を込めて講座に参加したことがわかる。

十勝3町においても同様に参加動機は様々だが、「まちのために活動したいと考えたから」はやや少なく、「仲間がほしかったから」「周囲に誘われた・勧められたから」が多いのは、地域活動への興味を問わず、広く青年を募集したことが理由と思われる。

(2) 本講座で「身についた」「向上した」「新たな気づきがあった」などと考えるものについて聞いたところ、「地域のことを考える視点」「地域のために活動する意欲」と回答した参加者が多かった。また「新たな人間関係をつくること」の回答も多かったことから、複数回の講座をとおして良好な人間関係がつけられたことがうかがえる。一方、「自分の考えを的確に相手に伝えること」の回答は少なく、コミュニケーション能力の向上については、参加者が実感するまでの効果を得られなかったのではないかと考えられる。

(3) 講座の中で、最も自身のためになったと感じる活動はどんなものか聞いたところ、自由記述による回答ではあるが、「地域のリーダーに必要な資質についての議論」と「他の参加者との意見交換」の2つが主なものであった。

(4) 今後、この講座での学びを生かして地域のために活動したいと思うか聞いたところ、全員が「思う」と回答しており、参加の動機として「まちのために活動したいと考えたから」を選択しなかった参加者も、地域活動に対して積極的な考えを持つことができたことがわかる。理論編で述べたが、この学習プログラムでは、参加者の「やる気を起こさせる」ことがひとつのポイントであり、(3)の結果のように十分なディスカッションを行うことによって参加者同士が刺激を受け、活動する意欲を高めたと推察する。

(5) 今後どのようなことをしてみたいと思うか聞いたところ、具体的な行動としては浮かばないまでも、今後の活動に対する手がかりを見つけたことができた参加者がほとんどであり、地域活動への参画を促進することができたと言える。

2 成果と課題

(1) 学習プログラムについて

両事例とも、学習プログラムについては各回2時間程度で、活動はディスカッションが中心となっている。理由としては、青年は仕事を持っている場合が多く活動時間が主に平日の夜間に限られるため、長時間のプログラムや実習的なプログラムを組むのが難しいことが挙げられる。

アンケートの記述からは、ディスカッションをとおして刺激を受けたことが、さらなる学習意欲や地域活動への参画意欲を高めることにつながっていることが推察できる。その要因としては、今回の理論編で参考とした「参加体験型学習の手法」の分類における「b) 話すことを主とする方法」を効果的に活用したことが考えられる。

しかし、さらなる地域活動のイメージの具体化や参画意欲の喚起のためには、アンケートの記述にもあるように、実習的な内容、「参加体験型学習の手法」で言えば、「c) 見ること」を主とする方法や「d) 実践すること」を主とする方法を取り入れていく必要があると考える。

(2) 学習成果の活用について

両事例のプログラムを見ると、理論編で紹介した浅井経子氏の「学習との関係から見た学習成果の活用の類型」の2つが具現化した形で学習と学習成果の活用が展開していることがわかる。

沼田町においては、学習プログラムがそのまま実践のプロセスとなるように構成されているので類型Bが当てはまる。十勝3町では、各回の学習の後にそれぞれの町での実践があり、またその成果と課題を持ち寄って学習するように構成されているので類型Aが当てはまる。

今回の2つの実践では、講座全体の学習成果を活用して参加者が地域活動に参画することに主眼を置いているが、講座各回の中でも学習成果の活用を意識しており、これらの積み重ねが最終的に地域活動に参画する意欲を高めることがわかる。

(3) 人材育成における連続講座の意義について

連続講座が地域活動に参画する人材を育成するために有効である理由として、長期にわたって様々なプログラムが展開できることのほかに、各回での学習成果や参加者の様子を確かめ、プログラムに修正を加えながら最適な内容の学習を展開していくことができることと、さらに、人間関係が構築されやすいということが挙げられる。アンケートからも新たな人間関係がつけられたと感じている参加者が多いことがわかる。

3 今後の取組

沼田町では、「沼田町の将来を担う町づくりリーダー養成塾」を継続し、具体的な地域活動への参画に導いていくとしている。また、すでに参加者の一部が、実践発表として講座に関わった既存団体に加入し活動を始めている動きがある。

十勝3町では、上士幌町において、子どもたちを対象としたクリスマス会を実施するなど具体的な行動を起こしたり、新得町において、まちの青年を中心とした交流会を開き、青年同士のつながりがつくられるように働きかけたり、鹿追町においては、既存団体が改めて組織の活性化を考えるための手がかりを得るなど、それぞれが次のステップに向け活動しているところである。

人が地域活動への関心を高め、まちの活性化に寄与する意義を学び、具体的に行動を起こすまでには、時間をかけて丁寧なプロセスを踏んでいくことが重要である。今回の2つの実践では講座企画の工夫によって、参加者それぞれが地域活動へのさらなる一歩を踏み出したことは大きな成果である。

今後は、この1年の取組で得られた学習成果や講座に関わった様々な団体・個人とのつながりなどを活用して、より効果的な学習プログラムの開発が進んでいくように支援していくとともに、今回の実践が、人材の育成に取り組む多くの市町村・団体等の一助になるよう普及に努めていきたい。

〈参考資料〉

- ほっかいどう学地域活動推進講座実施要領

- 「沼田町の将来を担う町づくりリーダー養成塾」開催要項

- 「上士幌町、新得町、鹿追町3町連携事業」開催要項

- 事後アンケート

ほっかいどう学地域活動推進講座実施要領

この要領は、「ほっかいどう学地域活動推進講座」の実施について、必要な事項を定める。

1 目的

本事業は、道民カレッジの主催講座として、地域の様々な機関との協働を進めるためのコミュニケーションスキルの向上を図る学習プログラムを市町村（広域を含む）や団体等との連携によって開発・実施し、もって地域活動やまちづくりに貢献する人材を育成することを目的とする。

2 内容

本事業は、次に掲げる事項に関して、本事業の実施を希望する市町村（広域を含む）や団体等と調整の上、参加者のコミュニケーションスキルの向上に資する参画型の講座を実施するものとする。

- (1) 参加者の確保
- (2) 会場・講師の選定・確保
- (3) 開催回数
- (4) 具体的な内容・プログラム
- (5) 講座修了後の参加者のフォローアップ
- (6) その他、講座の実施に必要な事項

3 募集及び申込み

「ほっかいどう学地域活動推進講座」申込書による。

4 開催地の決定

本事業の申込みがあった時は、以下の要件を勘案して開催地を決定する。なお、開催地は道内6圏域のうち2圏域2会場とする。

- (1) 参加者は道民カレッジ生、または、地域で活動する意思を持つものであること
- (2) 講座修了後も継続的に修了者に関わり、地域活動につなげる具体的なビジョンを持っていること
- (3) 高等教育機関やNPO、民間団体、近隣市町村等とのネットワークを構築しながら実践的な研修の実施を想定していること
- (4) 事業の効果を高めるために、連続した5回程度の講座を実施すること
- (5) 単年度の取組ではなく、複数年度の見通しによる中・長期的な人材育成を計画していること

5 事業実施後の働きかけ

- (1) 事業終了後、修了者に対して、修了者の関心のある地域活動や専門研修等につながる情報提供を継続するとともに、修了者同士のネットワークが形成されるような働きかけに努める。
- (2) 事業終了後、事後アンケート等を実施することにより、修了者の活動状況を把握するとともに、修了者への継続的な働きかけが実施されるように支援する。
- (3) 修了者の希望に応じて、「ほっかいどう学地域活動推進講座」修了者リストに登録し、市町村等の要請を受けて登録者を紹介する。

6 費用の負担

- (1) 会場の借り上げに係る費用は申込者の負担とする。
- (2) 講師の派遣、その他の費用は道民カレッジの負担とする。

7 単位認定等

本講座の受講による単位認定は、「学習単位認定及び称号・奨励賞授与等取扱要領」に基づき、講座の8割以上に出席したものを修了者として必修単位4単位を認定するとともに、修了証を発行する。

8 実施報告書の作成

講座修了後、開催地ごとに「ほっかいどう学地域活動推進講座」実施報告書を作成する。

9 その他

この要領に定めるもののほか、本事業の実施に当たり必要な事項は、本部が別に定める。

平成25年度 道民カレッジ主催事業 ほっかいどう学地域活動推進講座

「沼田町の将来を担う町づくりリーダー養成塾」開催要項①

- 1 目的 町内の青年、青年組織のネットワーク化を図り、まちづくりに資する研修を行うことにより、将来の沼田町の活性化を担う青年層を育成する。
- 2 主催 北海道教育委員会
- 3 主管 沼田町教育委員会
- 4 日時 平成25年10月15日（火） 19:00～21:00
- 5 対象 地域活動に興味がある沼田町に在住の青年
- 6 会場 沼田町生涯学習総合センター
(沼田町南1条4丁目6)
- 7 内容 ①ほっかいどう学地域活動推進講座の説明
町の青年を対象にした連続講座を実施する意義を説明するとともに、参加者に期待することを伝える。

②実践発表
沼田町で地域を盛り上げるイベントを中心になって展開している「ゆきものがかり」に取組の様子を紹介してもらい、地域で活動するイメージを膨らませる。

③全体交流・ふり返り
グループごとに話し合われた内容を全体で共有する。
- 8 申込み 締め切り：10月11日（金）
申込先：沼田町教育委員会 担当：岩井
電話：35-2132
メール：kyoiku@town.numata.hokkaido.jp
- 9 その他 講座後には懇親会を予定していますので、参加者には別途連絡します。

平成25年度 道民カレッジ主催事業 ほっかいどう学地域活動推進講座

「沼田町の将来を担う町づくりリーダー養成塾」開催要項②

- 1 目的 町内の青年、青年組織のネットワーク化を図り、まちづくりに資する研修を行うことにより、将来の沼田町の活性化を担う青年層を育成する。
- 2 主催 北海道教育委員会
- 3 主管 沼田町教育委員会
- 4 日時 平成25年11月14日（木） 19:00～21:00
- 5 対象 地域活動に興味がある沼田町に在住の青年
- 6 会場 沼田町生涯学習総合センター（沼田町南1条4丁目6）
- 7 内容 ①グループワーク「訪問客に対して町をどのように案内するか」
町外に紹介したい沼田町の特色や良さを交流し、それぞれのグループで簡単な町内観光コースを作る。

②全体交流
グループごとに話し合ったことを全体で発表する。

③ふり返り
本日の講座で気づいたことや感じたこと、学んだことを一人一言ずつ簡単に発表する。
- 8 申込み 締め切り：11月13日（水）
申込先：沼田町教育委員会 担当：岩井
電話：35-2132
メール：kyoiku@town.numata.hokkaido.jp
- 9 その他 講座終了後には懇親会を予定しておりますので、参加者には別途連絡します。

「沼田町の将来を担う町づくりリーダー養成塾」開催要項③

- 1 目的 町内の青年、青年組織のネットワーク化を図り、まちづくりに資する研修を行うことにより、将来の沼田町の活性化を担う青年層を育成する。
- 2 主催 北海道教育委員会
- 3 主管 沼田町教育委員会
- 4 日時 平成26年1月24日（金） 19:00～21:00
- 5 対象 地域活動に興味がある沼田町に在住の青年
- 6 会場 沼田町生涯学習総合センター（沼田町南1条4丁目6）
- 7 内容 ①グループワーク「町の活性化のためにどんな情報発信ができるか」
いろいろな情報発信の方法のメリットやデメリットを学び、地域の魅力の発信方法などについて、グループでアイデアを出し合う。

②全体交流
グループごとに話し合ったことを全体で発表する。

③ふり返り
本日の講座で気づいたことや感じたこと、学んだことを一人一言ずつ簡単に発表する。
- 8 申込み 締め切り：1月23日（木）
申込先：沼田町教育委員会 担当：岩井
電話：35-2132
メール：kyoiku@town.numata.hokkaido.jp
- 9 その他 講座終了後には懇親会を予定しておりますので、参加者には別途連絡します。

平成25年度 道民カレッジ主催事業 ほっかいどう学地域活動推進講座

「沼田町の将来を担う町づくりリーダー養成塾」開催要項④

- 1 目的 町内の青年、青年組織のネットワーク化を図り、まちづくりに資する研修を行うことにより、将来の沼田町の活性化を担う青年層を育成する。
- 2 主催 北海道教育委員会
- 3 主管 沼田町教育委員会
- 4 日時 平成26年2月21日（金） 19:00～21:00
- 5 対象 地域活動に興味がある沼田町に在住の青年
- 6 会場 沼田町生涯学習総合センター（沼田町南1条4丁目6）
- 7 内容 ①講義「地域の魅力とは何か、なぜ今、地域発信か」
講師：札幌大谷大学准教授 北郷裕美氏
「地域の魅力とは何か?」「何を伝えたいか?」など、まちが元気になる情報発信について、専門の講師と一緒に考える。
②ディスカッション
講義を聴いての感想や質問など、気軽に講師と意見交換
③ふり返り
これまでの研修と講師のお話から、講座全体をふり返り、今後の方向性を話し合う。

8 日程 19:00 20:10 20:30 21:00

受付	①講義	②ディスカッション	③ふり返り	閉会
----	-----	-----------	-------	----

- 9 申込み 締め切り：2月20日（木）
申込先：沼田町教育委員会 担当：岩井
電話：35-2132
メール：kyoiku@town.numata.hokkaido.jp
- 10 その他 講座終了後には懇親会を予定しておりますので、参加者には別途連絡します。

平成25年度 道民カレッジ主催事業 ほっかいどう学地域活動推進講座

「上士幌町、新得町、鹿追町3町連携事業」開催要項①

- 1 目的 青年層の育成について同様の課題を持つ上士幌町、鹿追町、新得町の近隣3町が合同で研修を行い、互いのスキルやノウハウを学び合うことにより、地域のリーダーとしての青年層を育成する。
- 2 主催 北海道教育委員会
- 3 主管 鹿追町教育委員会
- 4 日時 平成25年7月12日（金） 19:00～21:00
- 5 対象 上士幌町、新得町、鹿追町の青年層
- 6 会場 鹿追町ピュアモルトクラブハウス
- 7 内容
 - 18:30 受付
 - 19:00 開会挨拶
 - 19:05 講話「これからの青年に期待する」
鹿追町教育委員会教育長 小林 潤 氏
 - 19:30 実践発表「鹿追町の青年団体の取組について」
 - 20:00 感想・意見交流
 - 20:40 全体交流
 - 21:00 終了
- 8 申込み 別紙申込み用紙に必要事項を記入し、各町でとりまとめの上、7月10日（水）までに鹿追町教育委員会担当（大西）に報告すること。

平成25年度 道民カレッジ主催事業 ほっかいどう学地域活動推進講座

「上士幌町、新得町、鹿追町3町連携事業」開催要項②

- 1 目的 青年層の育成について同様の課題を持つ上士幌町、鹿追町、新得町の近隣3町が合同で研修を行い、互いのスキルやノウハウを学び合うことにより、地域のリーダーとしての青年層を育成する。
- 2 主催 北海道教育委員会
- 3 主管 上士幌町教育委員会
- 4 日時 平成25年10月10日（木） 19：00～21：00
- 5 対象 上士幌町、新得町、鹿追町の青年層
- 6 会場 上士幌町公民館
- 7 内容
 - 18：30 受付
 - 19：00 開会挨拶
 - 19：05 グループワーク「リーダーとして考えてほしいこと」
 - 19：40 実践発表「上士幌町の青年団体の実践について」
 - 20：10 感想・意見交流
 - 20：40 全体交流
 - 21：00 終了
- 8 申込み 別紙申込み用紙に必要事項を記入し、各町でとりまとめの上、10月8日（火）までに上士幌町教育委員会担当（牧野）に報告すること。

平成25年度 道民カレッジ主催事業 ほっかいどう学地域活動推進講座

「上士幌町、新得町、鹿追町3町連携事業」開催要項③

- 1 目的 青年層の育成について同様の課題を持つ上士幌町、鹿追町、新得町の近隣3町が合同で研修を行い、互いのスキルやノウハウを学び合うことにより、地域のリーダーとしての青年層を育成する。
- 2 主催 北海道教育委員会
- 3 主管 新得町教育委員会
- 4 日時 平成25年11月15日（金） 19：00～21：00
- 5 対象 上士幌町、新得町、鹿追町の青年層
- 6 会場 新得町公民館
- 7 内容
 - 18：30 受付
 - 19：00 開会挨拶
 - 19：05 グループワーク「リーダーとして考えてほしいこと」
 - 19：40 実践発表「新得町における青年の組織化の働きかけについて」
 - 20：10 感想・意見交流
 - 20：40 全体交流
 - 21：00 終了
- 8 申込み 別紙申込み用紙に必要事項を記入し、各町でとりまとめの上、11月13日（水）までに新得町教育委員会担当（乙井）に報告すること。

平成25年度 道民カレッジ主催事業 ほっかいどう学地域活動推進講座

「上士幌町、新得町、鹿追町3町連携事業」開催要項④

- 1 目的 青年層の育成について同様の課題を持つ上士幌町、鹿追町、新得町の近隣3町が合同で研修を行い、互いのスキルやノウハウを学び合うことにより、地域のリーダーとしての青年層を育成する。
- 2 主催 北海道教育委員会
- 3 主管 上士幌町教育委員会
- 4 日時 平成26年1月31日（金） 19：00～21：00
- 5 対象 上士幌町、新得町、鹿追町の青年層
- 6 会場 上士幌町公民館
- 7 内容
 - 18：30 受付
 - 19：00 開会挨拶
 - 19：05 講義「NPO法人 ezorock の取組について」
講師：NPO法人 ezorock 代表 草野 竹史氏
 - 20：30 講師との意見交換
 - 21：00 終了
- 8 申込み 別紙申込み用紙に必要事項を記入し、各町でとりまとめの上、1月29日（水）までに上士幌町教育委員会担当（牧野）に報告すること。

平成25年度 道民カレッジ主催事業 ほっかいどう学地域活動推進講座

「上士幌町、新得町、鹿追町3町連携事業」開催要項⑤

- 1 目的 青年層の育成について同様の課題を持つ上士幌町、鹿追町、新得町の近隣3町が合同で研修を行い、互いのスキルやノウハウを学び合うことにより、地域のリーダーとしての青年層を育成する。
- 2 主催 北海道教育委員会
- 3 主管 鹿追町教育委員会
- 4 日時 平成26年2月24日（月） 19：00～21：00
- 5 対象 上士幌町、新得町、鹿追町の青年層
- 6 会場 鹿追町ピュアモルトクラブハウス
- 7 内容
 - 18：30 受付
 - 19：00 開会挨拶
 - 19：05 これまでの取組のふり返し
 - 19：30 それぞれのまちでのこれからの取組
 - 20：40 まとめ
 - 21：00 終了
- 8 申込み 別紙申込み用紙に必要事項を記入し、各町でとりまとめの上、2月21日（金）までに鹿追町教育委員会担当（大西）に報告すること。

平成25年度ほっかいどう学地域活動推進講座
事後アンケート

	男・女	歳
--	-----	---

平成25年度ほっかいどう学地域活動推進講座に参加いただきありがとうございました。つきましては、今回の講座の成果と課題について、北海道立生涯学習推進センターの調査研究の資料とするため、本アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

1、2については該当する番号すべてに○をつけてください。

1 受講の動機はどんなことでしたか。

(1) まちのために活動したいと考えたから	
(2) 仲間がほしかったから	
(3) 周囲に誘われた・勧められたから	
(4) 何かしたいと思ったから	
(5) その他（具体的に記入↓ （ ）	

2 本講座で「身についた」「向上した」「新たな気づきがあった」などと考えるものは、どんなことですか。

(1) 自分の考えを的確に相手に伝えること	
(2) 新たな人間関係をつくること	
(3) 地域のことを考える視点	
(4) 地域のために活動する意欲	
(5) その他（具体的に記入↓ （ ）	

3 講座中で最も自身のためになったと感じる活動はどんなものですか。（講義・説明等の「聞く活動」を含む）

--

4 今後、この講座での学びを生かして地域のために活動したいと思いますか。（どちらかに○をつけてください）

思　う　・　思わない



「思う」と回答した方は、今後、どのようなことをしてみたいとお考えですか。

--

ありがとうございました。

本調査研究に関するお問い合わせ

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目「かでの2・7」8階
北海道立生涯学習推進センター

電 話 011-231-4111 (内線 36-326)

ファックス 011-261-7431

Eメール kensyu@manabi.pref.hokkaido.jp

HP 「生涯学習ほっかいどう」

<http://manabi.pref.hokkaido.jp/>

研究報告書 (第 3 5 号)

平成 2 6 年 3 月 発行

編集・発行 北海道立生涯学習推進センター
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目
電話 011-231-4111 (内線 36-326)